

HSK



第 51 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H. S. K通巻273号

発行日 平成6年12月10日
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市中央区北9条西19丁目55
細川久美子

平成6年 初冬号

第14回全道一斉腎キャンペーン



利尻富士の夕焼け（望・サロベツ原野）

撮影 鈴木 則夫氏

北海道腎臓病患者連絡協議会

「死の淵より蘇った人生」

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫



私は、この10月23日札幌腎臓病患者友の会創立20周年の祝賀パーティに、お招きを受けお祝いのご挨拶を申し上げる機会を得ました。

「生き抜いて20年生かされて20年」その尊さに感謝致します。それを支えて下さった多くの人々に深い感謝を申し上げます。また、この札幌腎友会の組織

を20年に互ってリーダーシップをとってきた、会長の鈴木啓三さんと、幹事の皆様に深い敬意を表すものであります。

北海道では、二番目に長い24年の「透析人生」をもつ鈴木啓三さんの担当医である北クリニック院長の今忠正先生は今年度、腎移植推進月間に、北海道ではただおひとり、厚生大臣より去る10月28日表彰を受けられました。謹んで、お慶び申し上げます。

省みますと、私事ですが昭和51年の暮れ、腎不全の尿毒症の末期で、ある病院に入院致しました。街ではXマスイブで年の瀬をひかえて街全体が、うきうきす

る時季でありました。

その時私の担当ドクターは、「旦那は、明年早々透析治療に入つて貰うが精々4、5年の命でしょう」と家内の耳元で囁くように言われたそうです。

その4、5年の命と言われた「だんな」の私が、今日皆様の前で、挨拶ができる。

「死の淵より蘇った我が人生」を省みた時、そこには「感動」という大きな言葉が私の胸を去来するのであります。

「透析人生」のこの20年、皆様もソツト胸に手を当てて考えて下さい。

「死の淵より蘇った我が人生」には4つの大切なことがあります。1、それは、透析医療技術が、驚異的に進んだことにより透析治療による寿命が世界一になったこと。

2、透析医療費が日本の社会保障により確立されたこと、その社会保障は、患者がだまっけていても国がそつと手を差し伸べてくれるでしょう。

3、皆様の患者組織の輪が大きくな「輪」となつて国を動かし、貧しい方も、お金持ちの方も日本人だれでも透析ができるようになったのであります。

昭和46年6月、東京、大阪、京都で1、000名足らずの腎友会の組織が誕生し、翌47年10月に「身体障害者福祉法」が腎臓病患者にも摘要されるようになったのであります。

4、家族に支えられた「透析人生」。私も本年古希70歳を迎えました。老兵は消えていくでしょうが、家族の支えがあったればこそ、今日まで生き延びて参りました。

組織の「灯」は、雨、風、嵐にゆらぐでしょうが、これからも10年、20年と強くたくましく生きて行こうではありませんか。



第37回道腎協ブロック会議開催

平成6年10月15、16日の両日、札幌市のホテルユニオンで、役員・役員代理・事務局含め合計31名により、第37回道腎協ブロック会議と役員研修会が開催されました。開催に先立ち、稚内ブロック乙竹さんはじめ同じ仲間の逝去を悼み全員で黙祷を捧げ冥福を祈りました。岩崎会長からは、健康保険法改



挨拶をする岩崎会長

悪による入院・給食費の一部負担が10月1日(北海道は平成7年1月)より施行されるとのお話があり、透析も益々きびしい時代を向かえてきたとの挨拶がありました。札幌の鈴木副会長を議長に選出して議事に入りました。

1、報告事項

(1) 全腎協法人化設立総会報告

○ 廣岡副会長から9月末に、社団法人の設立許可を厚生大臣に申請する旨の報告がありました。

(2) ブロック活動報告

- 札幌 20周年記念パーティーを10月23日に実施する。
- 小樽 親睦旅行・福祉ハイヤーの署名等の運動を行った結果、会員が増えた。
- 旭川 陳情中であった、旭川市立病院での透析が開始された。

(3) 道腎協前期活動報告

○ 15項目の内容について説明がありました。



講師の渡井先生

○ 十勝 遠距離通院が患者にとって大きな負担となっている報告。

○ 釧路 東方沖地震について特に大きな被害はなかったが、根室市立病院では翌日の透析ができず10人の患者が釧路市で受けた旨の報告。

2、討議事項

(4) 前期会計報告

(5) 前期監査報告
○ いずれも全会一致で承認されました。

3、役員研修会

○ 「透析は延命治療か」というテーマで渡井医院の院長渡井幾男先生を講師に迎え1時間の役員研修会を開催しました。参考までに長期透析患者の



研修会には約50名が出席

データについてお知らせします。(93年12月現在)

- リン値4.0〜7.0%
- 血清アルブミン値3.5〜4.5%
- 体重増加が自己体重の2〜6%

★先の値は少なくても多くてもよくないとのことです。

○適度の運動量がある。

その他に、自己中心的でわがままな患者は長生きできないとのことです。

○25年以上の患者は全国で23名。

○最年長の患者は27年(44歳の方)。



札幌は9月11日の雨天から10月2日に変更し実施(35名の登録)

街頭腎登録者拡大キャンペーン報告

昭和61年度より厚生省が定めた「腎移植推進月間」に呼応し、道腎協としても、腎臓病予防の重要性和腎バンク登録者の拡大を目的とし全道に呼びかけ運動を展開しました。

本年より本道では、季節柄1ヶ月早めて9月11日に全道一斉に行いましたが、天候に恵まれず、日程を変更したブロックもありました。結果としては、登録者56名、報道関係によるPR等成果が得られました。

□ 道南腎臓病患者連絡協議会

例年10月の第2日曜日に行われる腎登録者拡大街頭キャンペーンは、北海道の南に位置する函館であつても、気温は低く時にはみぞれまじりの雪の降る年もあり体調を崩すおそれもありました。

今年は1ヵ月早く9月11日に実施することが決り、当日の好天を願っていました。

さて9月11日は、前夜来からの怪しい雲行きで空は厚い雲に覆われてポツリポツリと落ちて来ました。

街頭キャンペーンの場所は、函館駅前の電車通りを挟んだアーケード

の付いた商店街の中です。目的



9月11日(日) 街頭キャンペーン終了後

地に着いたころ雨は急速に強く降りだしました。キャンペーン場所はアーケードがあるので「小雨決行」としてあり、今更、日時変更の連絡も不可能なためのほりを立て手付き袋にティッシュを分け入れて、準備万端整えました。雨の勢いは益々強くなり、舗道で跳ね返った雨はアーケードの奥まで飛び込み、白い簾を下げたように降ってきました。

「ひどい降りだな/今日やるの?」と会員が傘を傾けながら次々と集合しました。函館市立保健所の看護婦さん2人も応援に駆けつけ総勢19人になりました。

去年までは赤い羽の募金運動と鉢合せになり、ポイイスカウトの少年少女達の「募金お願いします」の甲高い声に負けそうになりましたが、今年には猛烈な雨に街行く人々も足早に、うつむき加減でティッシュやビラを手渡しするのが、やっつと雨に負けそうでした。

雨が少しでも小降りなればとの願いも空しくその勢いは変わらず、会員たちもアーケードの中とはいえ飛沫を浴びて衣服は濡れてきており、ティッシュも1,000組近



10月8日(土) 保健所まつりにて腎バンク登録

く配布できたのでキャンペーン終了を告げて散開していた会員を集めました。

肌寒さを感じる豪雨の中でしたが体調を崩した会員も出ずホッとひと安心しました。

応援の看護婦さんにお礼の辞を述べ雨中の記念写真を撮り散会としました。のぼりを収納し手付きの袋を回収して家路につく頃、さしもの雨も小止みとなり、「お疲れさんでした」と最後の一声のころ雨雲が切れ青空がポツカリと現われました。来年こそは好天の暖かい日和になることを願っています。

10月8日、土曜日に函館市立保健所の「保健所まつり」があり、保健所1階の隅をお借りして腎登録の場所を設けました。

その場で記入された方が1名、ほかに用紙を持って帰られた方が

□ 十勝地方腎友会

数名でした。そのほかに腎臓について話しこまれる方もおり短い時間でしたが「保健所まつり」の一環として保健に寄与する有意義な1日でした。

(報告・田中政夫)

9月11日(日)、帯広市内の藤丸デパート前とイトーヨーカドー店前に於いて全道一斉で腎バンク街頭キャンペーンが行われました。当日は十勝地方腎友会々員家族合わせて22名が参加、天候は曇りでしたが、今回の街頭キャンペーンは例年より1ヵ月早く開催されたためか、気温も暖かく街頭を行き交う人達の数もいつもより多く感じられました。午前10時より開始、街頭の人はまずまずといったところで、腎バンク呼びかけのチラシを配布するのにもスムーズに進み、予定より早くチラシ全部を配り終えました。当日は来賓として衆議院議員鈴木宗男代議士の代理の方、また帯広市議会議員の野上茂登子議員、そして帯広市総合福祉センターからは福祉課の小丹枝課長に



はい お疲れ様でした

褒好評でした。報道関係では北海道新聞帯広支社と十勝毎日新聞社に当日の取材を依頼していたため、記者の方が取材に来てくれました。今回の街頭キャンペーンで腎バンクに登録してくれたのは3名でした。ここ数年の街頭キャンペーンの成果が、「腎バンク」という言葉がだんだん一般の方にも浸透してきているように感じました。しかし、十勝地方腎友会々員の参加が例年より少なかったのがとても残念でした。街頭キャンペーンは午前11時過ぎに終了し、その後、参加者全員で藤丸デパート内のフア

□ 苫小牧腎友会

9月11日は朝から雨が降っていましたが、11時より苫小牧駅でキャンペーンを行いました。参加者は会員17名、市議1名、市係長1名、ライオネスクラブ13名でした。雨が降っていましたが、のぼりを立てることも出来ず、会員は駅の通路でビラとテッシュを配りました。30分で切り上げ、「ふれあい広場」会場へ向かいました。第15回「とまこまいふれあい広場」がキヤ

ミリーレストランにて街頭キャンペーンの反省等をしながら昼食、そして解散となりました。今年の街頭キャンペーンは例年より1ヵ月早く行われましたが、1ヵ月早く開催するとはいろんな点から考えても良かったと思います。気温が暖かく患者が参加しやすいこと、街頭の人数が多いことは何よりも成果を挙げるのには良い条件と言えるでしょう。この条件の下、来年はもっとより良い成果を挙げられればと期待してやみません。
(報告・岡崎友紀夫)

ンペーンと同じ日、市民会館で開催されました。私達腎友会も今年で三回目の参加です。健康な人も障害のある人も人々のふれあいの場を求めることで分かり合えるのではと云うことです。あいにくの雨にもかかわらず多くの人が会場に来て下さいました。腎友会でも一室にビデオを用意して1人でも多くの人に腎臓病のこと腎バンクの事を分かかって欲しいと思ってい

ましたが、残念なことにその日の登録者は3人だけでした。その中の1人の人が前から登録しようと思っていたのですが、どの様にするのか分からなかった、とのことです。この様に登録したいのにと云う人が他にも沢山いると思います。年に1〜2回の呼びかけだけではなく毎日患者一人一人がもう

□ 小樽後志地方腎友会

9月25日、長崎屋前集合とよびかけはしたものの、朝からあいにくの雨。
今年も雨の中のキャンペーン

少し腎バンクのことも勉強して登録に協力してもらおうようにしたら良いのではないかと思います。患者活動も年々難しくなっていると思いますので私達もゆとりと日を過ごしては行かないのです。自分の幸せを守るために少しは努力しようと思えます。
(報告・松浦範子)

は、何せ病人相手。受け取る側も傘をさしてだとなかなかビラその他を受け取らない難もありますが、アーケードの中でも出来るかと決行致しました。21名(看護婦2人、技師2人)の参加に主催者もちょっとホット致しました。



さあ頑張りましょう



□ オホーツク腎友会



看護婦さんによる無料血圧測定



参加者全員

□ 腎友会滝川クリニック透析者の会

滝川市では毎年秋に「市民健康まつり」を滝川市駅前にある西友デパートの1階陽だまり広場と3階の催場を借り切って滝川市が主催となって開催されています。

私達の透析者の会は発足当時から数年間は街頭で行ってきましたが、5年前滝川市の「市民健康まつり」があることを知り、さっそく市役所の担当の方にお願ひ申し

上げたところ、実行委員に計って下さいまして、心良く承諾していただき今日に至っているわけです。今年の開催日は10月2日(日)でした。開店から午後3時までとなりました。

開店から午後3時までとなり市民が入館して来ました。チラシ、テッシユ、風船など順調に配布されています。しかし登録カードを申し出た市民は午前中数名にとどまりました。昼食時となり、市役所で用意してくれました昼食を交替いただきました。午後3時までに配布したチラシは490枚、風船約600個、登録カードをもち帰った人は

ル、テーブル、椅子、テーブル用白布、延長コードなど使用する備品等は市役所の方で用意してくれていますので、私達はその用意されたパネルにポスターを貼ったり、配布するチラシ、テッシユ、風船などとり揃え、ビデオ放映も完了してあとは10時の開店を待つばかりとなりました。私達の1階は保健所のエイズ、エキノコックスのパネル展、薬剤師会の薬相談、栄養士の栄養指導、ライオンズクラブのアイバンク、そして私達の腎バンクコーナーなど併せて9コーナー、3階では歯科医師会の検診、消防署の心肺蘇生法、医師会のエイズ、看護協会の体力、血圧測定など併せて7コーナーがありました。

結局9名にとどまりましたが、後日になって4名の申し出がありました。宣伝効果があったのだと喜んでいきます。

午後3時コーナーを片づけ、今年のキャンペーンは終わりました。毎年のものでありますが、クリニックのスタッフの方々7名が参加協力していただいたこと心から感謝しております。

又、この市民健康まつりの広報はさまざまな形で宣伝されました。例えば市広報、有線放送、新聞折込、立看板、ポスター、町内会回覧など私達透析者の会も紹介され



市民健康まつり会場にて

ていました。これからも腎バンクのキャンペーンに取り組んでいき

たいと思います。

(報告・庵 律子)

□ 留萌水無人腎友会

腎バンク登録に協力を

水無人腎友会羽幌支部

【羽幌】腎臓病患者で組織する留萌地方水無人腎友会羽幌支部(南部義光支部長)の会員が二十五日、市街地で腎バンク登録者拡大キャンペーンを展開し、道行く町民に理解を求めた。

留萌地方水無人腎友会(藤田勝美会長)の管内統一キャンペーンで、この日は羽幌町と留萌市で行われた。腎臓移植は技術が大きく前進しているものの、ドナー(提供者)が少ないのが実情。キャンペーンは、患者自身が街頭に立って、腎臓提供への関心を高め、多くの提供登録者を募るのがねらい。

この日は午前十一時半から、会員十三人が参加し、六カ所に分散して腎バンク登録のパンフレットなどを



無料血圧測定も行った腎バンク登録者拡大キャンペーン

配布。また、道立羽幌病院の透析科職員二人もキャンペーンに協力して、無料血圧測定を行った。

同支部では、腎バンク登録の呼びかけを継続するとともに、現在、同支部会員のうち七人が留萌市への透析を余儀なくされていることから、地元の医療機関で治療を受けられる体制を確立するため、活動を展開していく方針だ。



ブレック作り

小樽ブロック

「ふとみ銘泉旅行記」

9月11日、誰の精進が悪いのか今までの暑さを裏返すような雨が前夜から降り、初秋を語るようにシトシトと条件の悪い日でした。にもかかわらず、会員家族等を含

めて50名の仲間が参加し、小樽駅前を10時出発。車は一路ふとみへと走り出した。

ふとみ銘泉にて

会長挨拶があり、車内では早速歌声開始、アコーディオン伴奏者に合わせ、若かりし頃口ずさんだ懐かしい歌、青い山脈・上を向いて歩こう・ふるさとの3曲を歌いました。どの顔も、昔へタイムスリップした様な満足感が見られました。続いてビンゴゲームに入り、早くビンゴになった人や最後まで粘った人など、明暗を分ける和やかな雰囲気、全員に景品が手渡されました。次に団体ゲーム、続いてトンチゲームに入りましたが、難問・奇問・珍問で、参加者はかなり頭をひねっていました。目的のふとみ温泉は11時15分到着、あつと言う間の片道でした。

日曜日なので、温泉は人・人・人の波。ようやく控室に着き、昼食を済ませたのは12時半過ぎでした。

さあ自由行動です。風呂へ入る人、仲間と懇談する人、館内を散策する人など、帰りのバスは3時出発ですが、この時間も短く、忙しい滞在のようでした。

それでも、記念にお土産なども買い求めホテル前で写真を撮り、バスに全員乗り込めました。

湯疲れの身をバスに任せ、又歌声、かあさんの歌・もしも明日の2曲を歌い終わり、あとはゆっくり車中休息に入りました。

雨も上がり、副会長から最後の挨拶があり、4時15分予定通りに

小樽駅前到着。晴ればれとした顔で家路に向かいました。

そしてこの旅行中に、新たに4名の会員が増え、朝里病院に会が誕生した事は、本当に大きな収穫であり心強く感じました。

計画を立てて下さった役員の皆さん本当に有難うございました。行事を進める裏には、目に見えない苦労が数多く有りますが、役員の方々の心遣いが、随所に見られました。これからの行事も腎友会の団結と和やかさで消化されるよう願っております。

来年の再会を約束して近況報告とします。

(報告者・工藤 豊)

十勝ブロッコ

「道東6地区交流会」

10月8日(土)、9日(日)の2日間にわたり、音更町の十勝川温泉・観月苑に於いて道東6地区交流会が開催されました。今回の道東6地区交流会は十勝地方腎友会が担当となり企画・準備してきました。

当日は、北見地方腎友会より23名、釧路地方腎友会より15名、紋別地方腎友会より2名、十勝地方腎友会より28名、計68名が参加、親睦を深めました。第1日目、当日の受付は午後4時より開始され、

鈴木茂会長をはじめ事務局役員、鈴木フサさん、島照江さん、松田ツカさん、上田龍子さんといった女性陣が中心となり参加者の皆さんを出迎えました。宴会は全体の記念撮影の後、午後6時30分より始まりました。まずは今回の道東6地区交流会の担当である十勝地方腎友会々長の鈴木茂氏の挨拶、続いてその他の各腎友会々長の挨拶となり、北見地方腎友会々長の土屋竹夫氏、釧路地方腎友会々長の掛札聖氏、紋別地方腎友会々長の井上茂氏の順で挨拶していただきました。そして十勝地方腎友会顧問の新倉義太郎氏による乾杯の音頭で乾杯し会食となりました。会食しながら塚本義彦氏、黒田進氏、宮城金一氏、清水一巳氏の準備・進行によりカラオケやビンゴゲームなどの余興も行われ、参加者の皆さん全員に景品が配られると宴もたけなわとなりました。あつという間に2時間が過ぎてしまい、最後は次回の道東6地区交流会の担当となる北見地方腎友会より事務局長の西木戸隆博氏の音頭で万歳三唱をして宴会は閉会となりました。宴会の後、各腎友会の会長

や代表者が集まり座談会形式で次回の道東6地区交流会に関することや腎友会活動について話し合い、互いに意見を出し合いました。第2日目、バイキングの朝食のあと、各腎友会ごとにそれぞれホテルをチェック・アウトし帰途につきました。ちょうど時期は紅葉の真最中、きれいな紅葉を楽しみながら各腎友会の皆様は帰られたことと



参加者全員揃っての記念写真

思います。最後に今回の道東6地区交流会におきましては十勝地方腎友会役員一同で一生懸命に企画・準備して参りましたが、何かと不手際、不十分な点があり、ご参加

いただいた皆様にご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りいたしましてお詫び申し上げます。

(報告者・岡崎 由紀夫)

苦小牧ブロック

「医療講演会をしました」

10月23日、待望の新しい市民活動センターがオープンしました。落成祝賀会が終わった直後に一番最初に、使わせて頂きました。管理している社会福祉協議会に

無理をお願いして実現したものです。透析医療講演会は4回目となり、講師に苦小牧日翔病院副院長の熊谷文昭先生をお願いしました。

会場には、会員、家族、医療関係者40名程度の参加でした。透析、



10月23日 透析医療講演会

CAPD、移植共にそれぞれうまくいっている人に満足感が高い、全国の今現在の透析施設では15万人の透析が出来る。プールアンドブル透析では、痛みに対しては劇的な効果がないが、かゆみ、不眠症は薄らぐ。ドライウエートの決め方は、心胸比、ハンブだけでなく、その人の体調を見ながら、判断している等でした。日翔病院の透析はプールアンドブル透析や、低カルシウム透析、リン吸収の為

の、ヘルツシユの使用等やっており、その先生の講演ということ

「さくらんぼ狩り」

で、参加者は真剣に聞いておりました。(報告者・伊藤 粹裕)

7月10日、霧雨の苦小牧を後に出発したものの目的地の壮瞥は晴れてるらしい。という言葉を感じつつ各々の車は期待と不安を乗せながら一路サクランボ狩り会場へ、車は9台それぞれの思惑をはせながら景色と重なる風景を横目で見ながら2時間の行程をただただ車を走らせた。ようやく目的地に1台1台と到着し、まずはサクランボ会場と曇り空の時折、涙雨が降る中を小走りに園内へと消えて行った。係員の案内で40〜50本の中から口に頬張りながら好みの枝を捜し当てていた。真っ紅な鈴なりになっているサクランボの風情や情緒を感じることなく取っては口とバックに放り入れ昭和新山の山膚や、煙も目で追うだけで頭の中はサクランボの量と雨の心配であった。洞爺湖の波も荒くチップ釣のボートがユラユラく々と、さながらボートの体操である。口の中

のサクランボはコロコロところがりパンと弾け甘いのやら、シユワーッと甘ずっぱいのやら10ヶ15ヶと食べてしまう。そのうち味などさっぱり分からず惰性で手がでる。人の群がっている木が甘いのだろうと思いつくなど置いて仲間に入り、口とバックに入れてゆく。まずはバックも一杯になりお腹も満腹してくるとサクランボの愛らしさもチョット敬遠し、それでも昼食へと車へ向かってゆく。隣の弁当を見ながら「これはおいしそう」と言いながらチョイと手を延ばしワイワイガヤガヤとしているうちに雨がパラつきそれとばかりに車に乗り込み三々五々解散いやはやなんと気忙しいサクランボ狩りか。参加者46名による行事も無事遂行することが出来、幹事さん本当にご苦労様でした。サクランボ夫婦に並べ お土産に (報告者・田中 弘美(家族))

「20周年記念パーティー」

10月23日(日)昼12時より、ホテルKKR札幌において腎友会20周年記念祝賀パーティーが盛大に開かれました。

来賓として北海道透析医会会長の今忠正先生(札幌北クリニック院長)、札幌透析医会会長の田島邦好先生(田島クリニック院長)、市立病院腎移植科の平野哲夫先生をはじめ、北海道腎臓病患者連絡協議

会会長の岩崎さん、小樽の会長、旭川の事務局長さん他役員の方々をお迎えし、会員含めて151名の方が出席されました。

まずはじめに、腎友会会長の鈴木さんのあいさつがありました。会長は、透析歴24年という大ベテランで、これからますます活躍していただきたいと思えます。

次に来賓の祝辞があり、その中で田島先生のお話が心に残りました。これからの医療に必要な事は、医者と患者との信頼関係をもっと深めていかなければならないということでした。まったくその通りだと思います。私達患者も考えてみる必要があるのではないのでしょうか？

続いて長期透析者表彰式が行われました。会員で20年以上は55名、10年以上15年未満179名の方々に、表彰状と記念品が渡されました。健康な人と変わりないほどもなさんとでも元気でした。アトラクションとして、佐藤文



20年透析者を表彰



和やかな雰囲気の中で

に当たっています。1990年には、津軽三味線全国大会に出場、1990年には、堂々3位に入選しました。現在、津軽三味線「藤線会」を発足し、10数名の生徒と共に活躍中です。透析者とは思えないほど、すばらしいバチさばきでした。抽選会を最後にパーティーは閉会となりました。

この20周年を迎えるまでには、先輩の方々の血のじむような活動があったからこそ現在の恵まれた医療が受けられるのではないのでしょうか。このことを私達は、決して忘れてはいけないと思えます。

先生、看護婦さん、医療スタッフのみなさん、家族の方々に感謝し、又、手助けしていただいて、これからも20年、30年と長生きしていきましょう。

(報告者・棚田 まゆみ)

滝川ブロック

「秋期研修旅行終わる」

当会恒例の秋期研修旅行が、9月25日沼田町幌新温泉ほたる館に

て開催されました。以前は1泊旅行でしたが、年々参加者が少なく



真剣に菅原先生のお話を聞く参加者

なり、ここ数年は日帰りで実施してきました。しかし1泊希望の声も聞かれることから、今年は春にアンケート調査をして、会員の意見を集約したところ、日帰り希望が圧倒的に多い結果でありました。この結果に従い準備を進め、9月上旬に参加者を募ったところ会員、家族、スタッフ併せて52名と当初の予想を上回る参加者を見る事ができました。9月24日(土)午後都合のつく役員が集合して、余興の景品買いをしました。あれこれと品定めが大変でしたが、結局買い終わってみると大きいダンボール

6個分にもなりました。

25日当日はあいにくの小雨模様でしたが、参加者がぞくぞくと集合してきました。定刻を15分ほど遅れて9時45分に大型バスに乗り込み、滝川クリニクを出発、一路幌新温泉ほたる館へと向かいました。例年ですとこの頃は紅葉が楽しめるはずですが、今年は青々とした景色で今いちでした。10時30分予定通りほたる館に到着。玄関にはきれいだころの娘さん達がお出迎え。なんとなくよい気分が入館しました。用意された洋室に案内され全員着席。土角会長の挨拶。来賓で本日の特別講演の講師でもある菅原院長先生の御祝辞をいただいたあと、さっそく研修会に移りました。まず土角会長が6月室蘭市で開催されました道腎協総会に出席されたときの報告がなされました。時間がなく、かいつまんだ内容にとどめられたそうですが、大変わかりやすく報告してくれました(御苦勞さまでした)。次いで本日の本命である菅原院長先生の特別講演へと移りましたが、院長先生には日頃当会に対し大変御理解と御協力を賜っており、会

の行事には都合がつく限り参加して下さいます。(7月10日に開催された登山には院長先生の奥様も血統証つきの愛犬を伴って参加され、私達を激励して下さいました。)このように会の行事にご協力いただいております院長先生のご講演とあつて、聴く会員の表情も真剣そのものでありました。日頃の自己管理のあり方はこうあるべきと約1時間30分スライドを使って大変わかりやすく教えて下さいました。参加されなかった会員の方々にも是非聴いてほしかったと思います。本当に残念でなりません。さて研修会も終わり会食となりました。毎年和室でしたが、今年のは洋室とあつてなぜか硬い雰囲気でしたが、余興の抽選会が始まるとその雰囲気も徐々にやわらいできました。景品の中には新米のコシヒカリ5キログラム入りの袋が数人分用意されていましたが、幸運にも当たった会員は重そうな格好ながら、顔はほころび嬉しそうに引き上げる姿が印象的でした。

無事余興の抽選会も終わり、自由行動となりました。温泉に入る人、お土産を買う人、又当日ロビーでは池坊いけのぼけの人達のいけ花展が開催されていきましたので、それを観賞する人とさまでした。時間の経つのは早いもの、そうこうしているうちに帰りの集合時間である3時になりました。最終点呼をうけましたが、みなさん疲れた様子もなく無事帰路につきました。来年の旅行はどこになるのでしょうか。今から楽しみです。役員のみなさん、そして貴重な日曜日にもかかわらずもせず参加してくださいましたスタッフのみなさん、本場をかりまして心からお礼申し上げます。今回の報告といたします。

(報告者…山内 勝也)



「みんなできええり」

副会長 鈴木 啓 三



私は透析を始めて、もうすぐ25年になります。

最初のころは外シャントで、ほとんどの患者は入院していました。ダイアライザーは、毎回透析膜を張り替えるキール型を使い、1回8時間から10時間で、1週間に2回の透析が一般的でした。食事(水分)管理も厳しく、退院して、夜間透析を受けながら、社会復帰(仕事)をするのが、目標(夢)だった時代でした。

また、透析(当時は人工腎臓と言っていました)は、「金の切れ目が生命の切れ目」と言われるほど、お金のかかる治療でした。もちろん健康保険はききましたので、社会保険本人は無料で透析出来ましたが、その家族は5割、国民健康保険では本人・家族とも3割の自己負担(月10万円から30万円くらい)でした。この様に、初期のころの透析は、肉体的にも精神的にも経済的にも、たいへん厳しいものでした。

しかし今では、ダイアライザーの改良、週3回透析や内シャントの普及、エリスロポエチンの実用化などにより、私達透析患者のクオリティライフは飛躍的に向上し、お年寄りなどを除くと、ほとんどの人は社会復帰しています。

また、医療費でも、昭和47年10月より身体障害者福祉法が適用され、自己負担はほとんど無くなり、「いつでも、どこでも、だれでも」透析を受けられるようになり、障害年金受給、鉄道・航空運賃割引、さらに今年10月からは高速道路料金も割引されるようになり、医療や福祉は、少しずつ充実してきました。

しかし、国は高齢化社会の到来により、今までの社会保障制度を維持していくことは困難だとして「国庫負担削減」「受益者負担の強化」「自助努力」などと、国の責任を後退させ、昭和59年10月の健康保険法改正による、健保本人の医療費一割負担をはじめに、年金法改正、老人医療費の定額払い、透析医療費の引き下げ、外来透析血液検査料の定額化、また今年4月からは、私達がもっとも恐れていた外来透析医療費の包括化など、医療と福祉を後退させています。

そして国は、今年10月から入院給食費の一部負担を導入し、本道では私達の活動の成果として、今までは医療費の自己負担が無かったのですが、私達の反対運動の力もなく、来年1月より透析患者などの重度障害者も自己負担をすることにになりました。最初の自己負担は少なくとも、だんだん負担が増額されることは、老人医療費をみても明白です。

私達は今こそ自分のためだけではなく、今後不幸にして透析を導入する人々のためにも、20数年前の「金の切れ目が生命の切れ目」と言われることのないように、透析患者全員がひとつになつて、この問題に取り組んでいく時だと私は思います。会員の皆様にも、もう一度真剣にこの入院給食費の一部負担導入を考えていただきたいと思えます。

(札幌腎友会会長)



ブロック紹介

十勝地方腎友会

現在、十勝地方腎友会は会長の鈴木茂氏を中心に会員200名余りで活動している。会発足は今から10数年前で会員数は20名程度からはじまったと聞いている。会の名称も当時は「帯広人工透析患者友の会」と呼んでいたそうで、帯広協病院、帯広第一病院、帯広クリニック、帯広西病院の当時の患者の皆さんが中心となり、親睦会などを開催していたようだ。「十勝地方腎友会」と名称を改めて今のように活動するようになったのは、現在顧問をされている新倉義太郎氏が会長に就任してからであり、十勝地方腎友会として今年でちょうど結成10周年を迎えることとなった。その間には会長も数名に渡り代わっていった。新倉義太郎氏の前に会長をされていたのは現在顧問の加藤健爾氏、新倉氏の後は今は故人となってしまう木村幸雄氏が会長となられた。この頃、

現在のようない役員構成が出来上がった。その後会長は塚本義彦氏、岡崎由紀夫氏と移っていき、今年の4月より鈴木茂氏が会長に就任し、事務局長といった役員が1年毎に交代するという十勝地方腎友会にとっては大きな変動期であった。そのために会員の皆さんには大変ご心配をかけたことと思う。しかし、その時代の状況にあった十勝地方腎友会体系を築くためには必要なことだったと言えるだろう。腎友会活動においては若い人達の行動力と人生経験より得た多くの知識・知恵が欠かせない。そのバランスをうまくとりながら腎友会活動を行っていかねばならぬ。新体制となった十勝地方腎友会、この結成10周年を機に新生十勝地方腎友会として今後活動していくこととなるのだが、決してこれまでの活動を一新するのではなく、これまでの活動で得られた事

を大切にしながら、新しい状況に対応した活動をしなければならぬ。十勝地方腎友会結成10周年の今年には、機関誌「花時計」10周年記念号の発行といったように10周年にあわせた活動だけでなく、道東6地区交流会においてはその準備や企画を担当し、また腎バンク街頭キャンペーンなどの例年行っている行事の開催など、とても大変な一年間となっている。役員においても、まだまだ慣れていない事が多く必死に活動している。今後ますます厳しくなる我々透析患

者の置かれている状況に果たして、どれだけ十勝地方腎友会として対応出来るか、いや対応しなければならぬのだ。今後ますます透析患者も増加、会員も増加することが予想される。そのようなことからこれまで以上に会の団結力が大事になってくる。また十勝地方腎友会としての組織の役割も大きくなっていく。これからが本当の活動なのだ。会員一人一人の力を合わせて、新しい十勝地方腎友会の歴史を築いていきたい。

広報員通信

『楽しいお正月の過ごし方』

小西 誠 一 (函館)

北海道の長く厳しい冬は、私たちのような透析者にとって、つらい季節である。まず、風邪をひかないように十分注意しなければならぬ。ひいたかなと思ったら、早めに手当するなど厳重な健康

管理が欠かせない。凍結路面に足を滑らせて思わぬ大けがをしかねないし、クルマを運転するにしてもスリップ事故の危険はある。道路は渋滞し、勤務時間にも透析時間にも間に合わないことがある。



雪が積もれば雪かきもしなければならぬ。空気が乾燥するため、肌はカサカサになって皮膚はかゆくくなる。冬の間だけでも南の暖かい土地へ移りたいと思うが、おいそれとそういうわけにはいかない。クマやリスのように、春が来るまで、冬眠するわけにもいかない。私の場合、冬の季節にはいつも辟易してしまう。

ただ、お正月の間だけはどうか寒さから解放されるので、お正月休みを待ち遠しく思う。お正月の休暇を利用してスキーやスケート、旅行などスポーツやレジャーを楽しむことはできるが、私たちには、やはり風邪や怪我が怖い。そこで、家の中にいることが最も安全で快適だと思う。お正月の間は家の中で過ごす。これが最高である。家にもつてのんびりとテ

レビを見るのがいい。映画、ドラマ、バラエティ、スポーツ、歌などなど、部屋を暖かくして、おやつを食べながら、そしてちよっぴりお酒も飲みながら、テレビの前に居座るのが一番である。テレビの番組に飽きたら、ビデオを見るのもいい。レンタルでもよいし、とりだめてもよい。ビデオにも飽きたら、本を読む手だつてあるし、音楽に耳を傾けるのも乙である。それにも飽きたら、ゴロ寝である。

このとき、風邪をひかないように毛布をかけるのを忘れないようにする。暖かい部屋でこうしてうたた寝をすることは、とても気持ちのいいものである。そして、そろそろ家にいるのも飽きるころ、透析のときがやって来る。これが実にいいタイミングで、気分転換にもなつて気分よく透析を受けられる。透析が終わつたら初詣に足をのばしてみるのもいい。

お正月には、家にももるのに限る。外出は病院へ行くときだけとする。見方によつては、これでは平凡すぎて、ちつとも「楽しいお正月の過ごし方」とは言えないかもしれない。しかし、日本中の大

部分の人々は、家族団らん、ストーブで暖をとりながら、テレビを見たり何かゲームをやつたりして、お正月を過ごすと思う。特に、私たちのような身体に障害をもつた人にとつて、暖かく居心地のよい我が家で人並に新年を迎えることは格別な意味がある。

かつては、腎不全で尿毒症を併発すると生きることができなかつた。医療技術の進歩もさることながら、患者とその家族、医師をはじめとする医療関係者の大きな声促した。今では、14万人近くの腎不全患者が、腎機能を失いながらも、人工透析で生命を維持しているし、健常者と伍して立派に社会

参加を果たしている患者も多数いる。このことは、普段なかなか思ひ至ることのできないことであるが、少なくともお正月には今一度思い返してみたい。

内においても外においても、楽しくお正月を過ごすということは、古い年を生き抜いて新しい年を迎えたという喜びを家族とともに分かちあうことであるし、だれ彼となく感謝の気持ちにひたることである。このように思いめぐらすとき、この厳しい冬を乗り越えるという生きる勇氣と自信がわいてくる。少なくとも私にとつては、家にじつとしてあれこれと、物思いにふけるだけでもお正月は楽しい。



『飛驒・高山ツアーの思い出』

住友 信俊 (札幌)

この夏、家内に同行して道腎協主催の「飛驒・高山」ツアーに参加し

た。

7月17日10時10分、一行37名は



高山人力車（大久保さん、門田さん）

千歳空港を名古屋に向かって飛び立った。名古屋空港からはバスで、立山黒部アルペンルートの入口、信濃大町の黒部観光ホテルに直行した。市販の旅行案内書によれば、このホテルは大町で屈指のホテルになっている。「旅の宿パンフの料理がでてこない」という川柳があるくらいだから、案内書をうのみにはできないかと思っていたが、外観、風呂などは掲載の写真どおりで、夕食が大いに期待できました。粗食になれている私はなにを食べてもうまいが、この土地で取れた材料を使った料理や普段は味わ

えないような料理が嬉しかった。いちいち女中に「これは？」と聞くのも、食生活の貧しさをさらけ出すようでまじりが悪いが、献立表でもあればと思ったりしながら、腹一杯食べた。

2日目の立山黒部アルペンルートは、今度の旅で一番楽しみにしていたところだ。立山連山を貫ぬく、トロリーバス、ケーブルカー、ロープウェイなどを乗り継いで、旭岳よりも高い標高2450mまで登り、下山することができる。どの乗り物も朝の通勤時のような混雑だった。数箇所の乗り継ぎ場所の施設は、地下鉄と同程度の階段で、膝が悪い家内も難渋しませんでした。

黒部ダムは、ほとばしる雄大な放水。はるか眼下の谷底にかかる虹。見応えのある景観だった。

立山連山の頂はあいにくと雲に覆われ、見下せば霧で霞むなど素晴らしい景色は今一つだったが、一番の高所室堂平で、残雪の尾根に囲まれた散策コースをそぞろ歩きで楽しむことができた。山が好きで、結婚前には大雪山の縦走もした家内には、よい思い出になったようだ。

3日目は高山市で、高山祭りに巡行する屋台を見学した。工芸品はよく分らないが、豪華さに目を奪われながら、これだけ見事な屋台と祭りを数百年も守り続けている。飛騨高山の伝統とそれを支える底力に驚嘆した。

屋台会館から朝市を巡り、屋台も人力車も調和する古い町並みを思い思い散策した。

名古屋の透析病院には午後4時ころ到着した。肉親が全員病院に入るのを見送ってから、家族はホテルに向かったが、旦那さんを思いやって涙ぐむ奥さんのおいでになり、家内を見送ったときには、なんの感情も湧かなかった私も、

『立山黒部アルペンルートと

高山を旅して』

宮本律子（深川）

道賢協企画の旅行に参加するのが私のたのしみのひとつです。今年も参加し思い出も沢山で、毎回参加の方、久しぶりの方に再会し、皆元気で頑張っておられるのだと

ついほろりとなつてしまった。

4日目は午前中明治村を見学、午後名古屋空港から帰途についた。千歳空港着は16時。18時すぎには全員元気で札幌駅に帰ってきた。

今回のツアーに参加して特に感じたことは、個人での観光旅行は、交通機関や宿泊先のほかに、透析を受ける病院の手配など事前の準備などが大変で、思ってもなかなか実行できない。一切を主催者にお任せして、身体一つでも参加できるようなツアーは、ありがたいことだ。何かとつらい日の多い透析患者にとって、このような企画は、大きな励みであると思う。（家族）

思うと、うれしく思いました。参加者は会員家族37名でした。7月17日札幌駅北口と千歳空港直行と二手で出発し、空港で全員揃い9時55分名古屋空港へと飛び立ち11



時55分着陸、一同ホットする（名古屋空港事故を思いだして）。

名古屋空港より貸切バスで一路信濃大町温泉郷へと走ります。1日目の夜は黒部観光ホテルで温泉にゆくりひたり、広い日本間で満足し床につきました。2日目7時30分出発。いよ／＼目的の立山黒部アルペンルートへと。

ヒンヤリとする朝の空気に心地良くバスは扇沢駅へと走ります。深緑の山々の中を通り扇沢駅に着

く。扇沢から6・1kmのトンネルをトロリーバスで抜け黒部ダムに着く。ダムのバス停から展望台へ

の200段以上の階段を元氣を出して登りダム堰堤にたどり着く。雄大な自然が目の前に広がり堰堤

から見る蒼く澄んだ湖面に映る立山連峰の景観、ダムの放水は力強

く多くの尊い犠牲のうへ出来上がった黒部ダムは今も目にやきついで

います。黒部湖駅から地下ケーブルで5分、平標1828m黒部平駅に。黒部平が全長1700mの立山ロープウェイで大観峰へと。

窓から眺める立山連峰は素晴らしく乗る前の不安もどこえやら大パノラマを楽しみました。大観峰は人の波。どこへ行っても人ひと人。

雲上の展望台は小雨が降り霧がかなり残念でした。外国の旅行客の多いのもびっくりです。大観峰からトンネルバスで立山連峰雄山3003mの直下抜け室堂へ着く。

雄大な山々が目の前に迫り手が届きそうです。緑の木々雪渓のコントラストが鮮やかで絵を描く主人にシャッターを切る。標高2450mの室堂で全員で記念写真をと

りあとは自由散策、玉殿の冷たい湧水を飲み喉を潤してからミクリガ池に向いました。

7月頃迄ならミクリガ池に雷鳥が見ることが出来ると聞き、出かけましたが一羽も見えず残念でした。疲れも忘れてよく歩いたものです。

室堂ターミナルから美女平へと下るのですが待ち時間が長く団体客の多いのにさすがに「ドオー」と

疲れが出てバスの中では寝ている人が多かったようです。霧深くバスは一寸先見えない山を曲がりながら下るのですが時折霧の晴れ間から高原が広がりチングルマ、黒ユリ、岩鏡が咲いていて心が和みます。

美女平からケーブルで立山駅へと下り迎えるバスで高山ホテル古都に着く頃うすうすと夕闇がせまって

いました。すっかり疲れ夕食もそこ／＼風呂に入り床につきました。3日目は高山見学、朝食に高山郷土料理村葉みそ焼きが出ました

が朝から目もはれぼったく夜間透折迄何kg体重増加になるか心配でしたが高山は美味しいものが沢山有り今日は良しと勝手に決断し食べました。

高山屋台会館を全員で見学、秋の高山祭の屋台が並び巫子さんが説明してくださり、屋台が金工染織などの技術を駆使した美術工芸品

を目を見はり、15分のビデオを見てすばらしいの一声。歴史の重みを感じました。このあとフリー

タイム友人と古都の町並ぶらく／＼朝市、みたらし団子などなど。昼食は飛騨牛料理。品数の多い事。

口に入ってしまった思い出せないほどですが高山の味食文化に触れた

思いです。フリータイムの時、城山公園や飛騨国分寺など見学しなかった事が心残りです。高山に心を残し透折のため名古屋へと向いました。

夜間透折ではノア大久手クリニツクの先生、スタッフの皆様が親身になっての対応に感激しました。本当に有難い事と思えました。

最後の夜、都ホテルでは疲れもピーク、朝、友人に起こされる迄ぐっすりです。4日目は美味しい和食の朝食に満足しホテルを後にします。名古屋明治村での自由な敷時間をタイムスリップした様な建物、乗り物

などひとときを遊び、名古屋空港へと向い、無事帰って来ました。透折者個人ではなかなか行かない旅行でしたので参加出来たのがうれしく思います。

又ひとりの落伍者もなく日程を終り、企画して下さった道警協事務局の方々、添乗員の方にお礼申し上げます。

また、皆様と再会できる日を楽しみに今後の企画に期待申し上げます。

『娘と私』

佐 高 留美子(旭川)

「麻雀の麻」「麻葉の麻」私は人に聞かれる度にユーモアたっぷりに答えたものである。娘の「麻夕」の名前である。そのせいかどうか、女の子としては、とても珍しい子に育ってしまった。

何をするにも男と同じ、いやそれ以上である日常の会話は勿論、ほとんどの動作は足で済ませてしまおうと言う変者である。母親である私が雑な人間ではあるが、そんな教育をした覚えは一度だってない。

別にノンカルシウムの食事を与え続けたわけでもない。幼い娘を置き去りにして夜遊びに出かけたこともない。授業参観日には必ず出かけたものである。豊かな自然にも触れさせ、生命の尊さ、愛についても生活の中で教えてきたつもりである。3歳からお琴の教室に通わせもした。それなのに高校生になると主人のことを「おやじ」私を「るー」と呼ぶようになる。毎日、毎日、口が酸っぱくなる

るほど言ってしまうまでもまずまずエスカレートするばかりである。別に非行少女でもないし、先生に注意されたこともないので、私ももう聞き直ることにした。彼女は彼女なりにポリシーがあるのだと。彼女は現在看護大の学生である。

大学生になり、必然的に1人暮らしをすることになった。するとどうしたと言うのだろうか。室内はびっくりするほど美しく飾り立て、しゃれたお料理を作り、もてなしてくれたのである。足もどうなったのか、正座しているではないか。私が何か手伝おうとすると、「座ってのんびりして」とのお言葉。私にはとても信じれない、余りの変わりように我が目と耳を疑った。それから数カ月後、夏休みになり、彼女は帰省してきた、私は何か珍しいものでも見るように、そっと様子を伺ってみると、ちよっとした残り物でお惣菜を1品作ったり。あの頃の娘は一体どこへいったの

だろう？母親としてこんなうれしく思ったことはなかった。

だが数日が過ぎ、久しぶりに2階の彼女の部屋を訪れた私の目に入ったのは、無残に脱ぎ捨てられたジーパンに下着、教科書にレポーター用紙の山々……

考えてみると、「三つ子の魂百まで」と言うのではないか。「子は親の鏡」とも言う。せめて娘だけでもといちるの望みをかけた私が間違っていた。所詮「蛙の子は蛙」だったのだ。

『CAPD体験記』

それにつけても、こんな私と娘の間で、肩身を狭くして、ひっそりと生きている主人がいます。これからは彼にも敬意を払い大事にしていきたいと思っています。

また、こんな幸せな今の私が何故あるのだろうか、20数年前、透析をしていない患者達が「自分たちも透析をしたい」と全腎協を結成し、苦しい身体で、苦しい陳情運動を行ない、今の幸せがあることを思いだし、今後の患者会活動に努力したいと思っています。

齊 藤 一 子(小樽)

は短くはかない一生なのに、精一杯生きていく姿に、感動致します。

人工透析と、かかわりあって10年!! CAPD(連続携行式腹膜透析)に、きりかえて2年、シャントが悪く、毎日泣く思いの透析人生でした。CAPDとの出会いは、私に、

雪虫のような、精一杯生きる喜びと、希望を与えてくれました。

小樽の天狗山に初雪を見ると、街路樹のまわりを、あるいは街角で、雪虫の集団に出会います。雪虫の命



お聞きし、私に、ピッタシと、早速担当医師に相談、手術にふみきました。

はじめは、大変不安でした。約10年近く続けてきた、HD（血液透析）から、CAPDに切り替えて、未知の世界に、飛び込むのですから、思いきった以上は、すべて先生におまかせしよう―最後のHDは、大変苦しいものでした。

翌日の午後1時、手術着に着替え、手術台へ、意外と簡単に手術は終わり、手をひかれながら一步一步登る階段は、まるで天国へむかう階段の様に思えました。

はじめは、1日5回500gから徐々に液がふえて行きました。

術後一週間、私は、HDをやらない、でも生きている。CAPDが私を救ってくれた。目頭の熱くなる思いでした。

担当の看護婦さんから、CAPDの指導をうけ、勉強に入ります。私の場合は、熱も出ず、食欲もあり、すこぶる順調に進みました。

CAPDを導入し、7ヶ月が過ぎた頃、早く機械なじめる様に、先生がサイクラーに切り替えてやってみましようと再度入院、勉強に

入りました。

サイクラーとは、真夜中にかけて、2kgの液をコンピュータの操作で4回交換し、約9時間かかりますが、寝ながら交換できます。手動で交換していたときは、約4時間く5時間の間をおいてのバツク交換は、目まぐるしいものでした。私も、仕事をもっていますので、このサイクラーへの導入は、

昼間の時間が有効に利用できます。そして、HDとの違いは、液を交換した後でも、普段の生活と何も変わりません。あれほどかゆかった身体も、日中は、ほとんどいって良いほどかゆくありません。夜、身体が温まってくると、少々のかゆみはあります。

日中、時間が出来る様になると、習いごともしたいし、液さえホテルあてに送ると、何泊もの旅行も出来ます。今年も黒部アルペンコースと飛騨高山の旅に、参加致しました。

旅行に行くと、新しい友達のがひろがり、又来年お逢いしましうと、別れをつけるのです。私は、CAPDに救われました。そして、年々CAPDの技術も

進歩しています。全国で、約14万人に慢性透析患者が増えているとお聞きしました。CAPDの患者は約その5%程度だそうです。今年の全国大会でもCAPDの部会は満員だったとお聞きしました。関心はあるのです。何かと知りたいと思っます。私の体験でも参考になれば、

幸いです。

一雨ごとに季節が、秋から冬へと忙しげに立ち去って行く。山には、先日ふった雪も消え、雪虫もどこへ飛び去ったか影も形も見えません。

さあ!!又がんばって、一日一日を有意義にすごそう。寒さに負けず、明日を信じて!!

幸いです。

一雨ごとに季節が、秋から冬へと忙しげに立ち去って行く。山には、先日ふった雪も消え、雪虫もどこへ飛び去ったか影も形も見えません。

さあ!!又がんばって、一日一日を有意義にすごそう。寒さに負けず、明日を信じて!!

編★集★後★記

○表紙のカラーについてどう思われたでしょうか、今回は、表紙にこだわってみました。内容も?

撮影された鈴木さんは、編集委員会の要であるMさんの友人であります。これを機会に、本紙愛読者で、自慢できる写真をお持ちの方、事務局へ連絡いただければと思います。

○以前よりCAPDの会員さんより、CAPD患者としての情報交換がほしいとの要望があり、今回は、道腎協の運営委員でもあります斎藤さんに、原稿をお願いしました。これからは、CAPD会員さんの情報の普及にも手助けしたいと考えます。

○入院給食費が平成7年1月より自己負担（1日600円）が実施されます。

今後、道腎協としては、入院給食費にも重度心身障害者医療費助成制度が適用されるよう運動を進めて行きます。

○通院透析の場合は、従来通り自己負担はありませんが、一部の県で、業者からの弁当を使用している施設が、栄養士がいらないというところで食事が止められたところもあります。道内でこれに該当する施設がありましたら、ご連絡ください。（川村）

低リンミルクL.P.K.とは

慢性腎不全の方は、良質のたん白質、必須栄養成分を適量摂取しながら、水分やリン、カリウム、ナトリウムの摂取を制限した食事を長期間継続する必要があります。特定保健用食品の第1弾として許可された低リンミルクL.P.K.は、消化吸収されやすい乳たん白質の他、カルシウム、鉄、各種のビタミンを配合したうえ、リン(牛乳の1/5)、カリウム、ナトリウムを低減してありますので、低リン食を指示されている慢性腎不全の方の食事療法に適しています。牛乳の代わりや料理の素材としてもご利用ください。



内容量
20g×15本

慢性透析患者に対する低リンミルクL.P.K.の使用経験

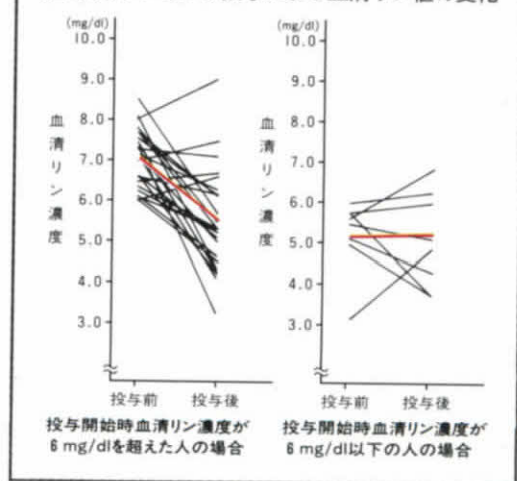
(和医大)北 裕次、阿部富弥、大塚量子 (岩見沢市立)大平整爾 (関東労災)前田貞亮、田崎綾子 (白鷺病院)山川 真、佐藤善久子 (福岡日赤)藤見 惺、金井英敏

[出典：日本透析療法学会雑誌(22(2)：201~204,1989)より抜粋、一部改編]

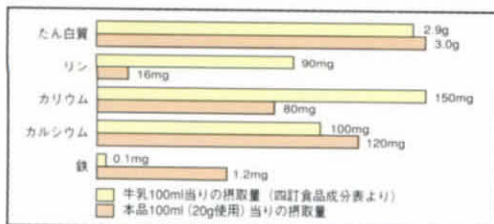
■結果 図1は低リンミルク投与前と投与4週間後の血清リン値の変化を示す。左側は開始時血清リン濃度が6 mg/dlを超えた場合(n=24)、右側はそれ以下の場合(n=8)である。全体の投与前値と投与4週間後の平均はそれぞれ、 6.7 ± 1.1 、 5.5 ± 1.2 で危険率0.5%で有意に4週間後が低い結果となった。しかし、6 mg/dl以下の人については有意差を認めなかった。

■結論 慢性腎不全患者の高リン血症に対し低リンミルクを使用した結果、血清リン値の低下及びCa×P積の正常化が確認できた。

(図1)低リンミルク投与による血清リン値の変化




低リンミルクL.P.K.と牛乳の成分比較



札幌市白石区流通センター1丁目11番17号
森永乳業株式会社札幌支社
低リン食品担当係

TEL (011) 865-2821 (直通)

上記低リン食品について資料をご希望の方は、官製はがきに  を切り取って貼り、〒、住所、氏名、電話番号、年齢、透析年数、透析病院名をご記入の上、左記へお送り下さい。

